

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みにになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

食物アレルギー診療ガイドライン 2021

一般社団法人日本小児アレルギー学会食物アレルギー学会食物アレルギー委員会（統括委員長 藤澤隆夫 国立病院機構三重病院、作成委員長 海老澤元宏 国立病院機構相模原病院臨床研究センター、副院長 伊藤浩明 あいち小児保健医療総合センター）
協和企画、2021年11月13日 第1版第1刷発行

■1 小麦、胡麻、桃仁、山薬、阿膠、消風散、紫雲膏

疾患:

食物アレルギー

副作用に関する記載ないしその要約:

食物アレルギーを含む薬剤・ワクチンのその他の項に、下記の記載がある。

『漢方薬の中には小麦（該当生薬：小麦）、ゴマ（生薬名：胡麻）、モモ（該当生薬：桃仁）、ヤマイモ（生薬名：山薬）、ゼラチン（生薬名：阿膠）などを含むものも存在する。特に消風散（胡麻を含む）と紫雲膏（胡麻を含む）は湿疹治療に使用されることがある。』